

堺市こころの健康センター所報

第 8 号
(平成25年度実績)

堺市こころの健康センター

はじめに

改正精神保健福祉法で保護者制度を廃止したことに伴い、平成 26 年 4 月より医療保護入院の要件を精神保健指定医 1 名の判定と保護者の同意から、精神保健指定医 1 名の判定と家族等の同意に改められました。これにより従来保護者に規定されていた治療を受けさせる義務、財産上の利益を保護する義務、医師に協力する義務などの負担が解消されました。

新たな入院ではこれらの義務を入院に同意した家族が負う必要もなくなり、入院が必要と判断した医師や医療機関の責任がより明確化されることになりました。同時に医療保護入院者が不必要に長期間入院することがないように退院支援が制度化され、退院後の生活環境については退院後生活環境相談員が選任されることや医療保護入院者退院支援委員会の設置（入院予定期間を超える場合等）なども行われることとなりました。

また、保護者制度廃止に伴い、今まで入院者と保護者に限定されていた退院請求権が、入院に同意可能な家族すべてに拡大されました。そのため当センターでは、今まで退院請求権のなかった家族からの退院請求等による相談・審査件数増加に対応するべく平成 25 年度より準備をし、今年度は大きな混乱もなく 2 ヶ月が経過しております。

当センターの柱の 1 つである専門相談では、ひきこもり専門相談、薬物依存専門相談、自死遺族専門相談すべてにおいて、平成 24 年度よりも相談件数が増加し、平成 25 年度は 814 件と昨年度よりも 50 件以上増加いたしました。今年度はひきこもり専門相談については、家族教室やグループワークの実施、ユース・サポートセンターなど関係機関との協力を引き続き維持し、さらなる充実が必要となっています。また、薬物依存専門相談では、刑法一部改正に伴う薬物事犯者への対応、各保健センターへの技術支援、違法薬物に対する啓発活動など、関係機関との協力を通じてさらに力を入れなければいけない分野となってきております。

社会の変化に伴い、こころの健康センターへの期待や役割が多様化・複雑化しており、より適切な業務遂行のために、引き続き皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 6 月

堺市こころの健康センター
所長 木内 邦明

目 次

はじめに	1
I 堺市こころの健康センターの概要	
1 施設	3
2 組織と職員数	5
II 事業概要と業務実績	
1 専門相談・診療事業	6
2 教育研修事業	11
3 普及啓発事業	15
4 技術支援事業	19
5 組織育成事業	20
6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定	21

I 堺市こころの健康センターの概要

1 施設

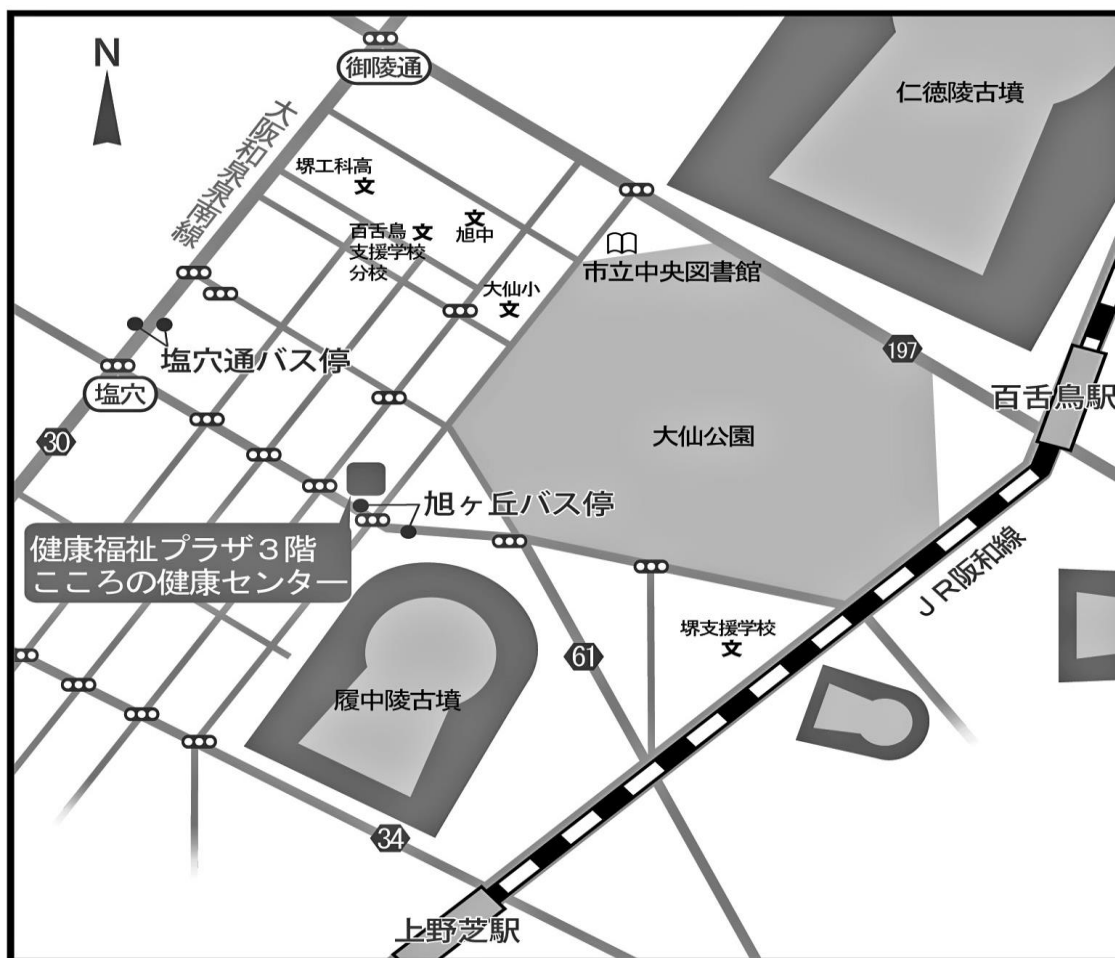
1-1 外観



1-2 平面図



1-3 所在地



〔住所〕〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ3階

〔電話〕072-245-9192 〔FAX〕072-241-0005

072-243-5500 (こころの電話相談)

072-241-0880 (ひきこもり電話相談)

072-245-9192 (自死遺族相談)

〔アクセス〕JR阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ1.4km

JR阪和線「上野芝」駅下車 北西へ1.3km

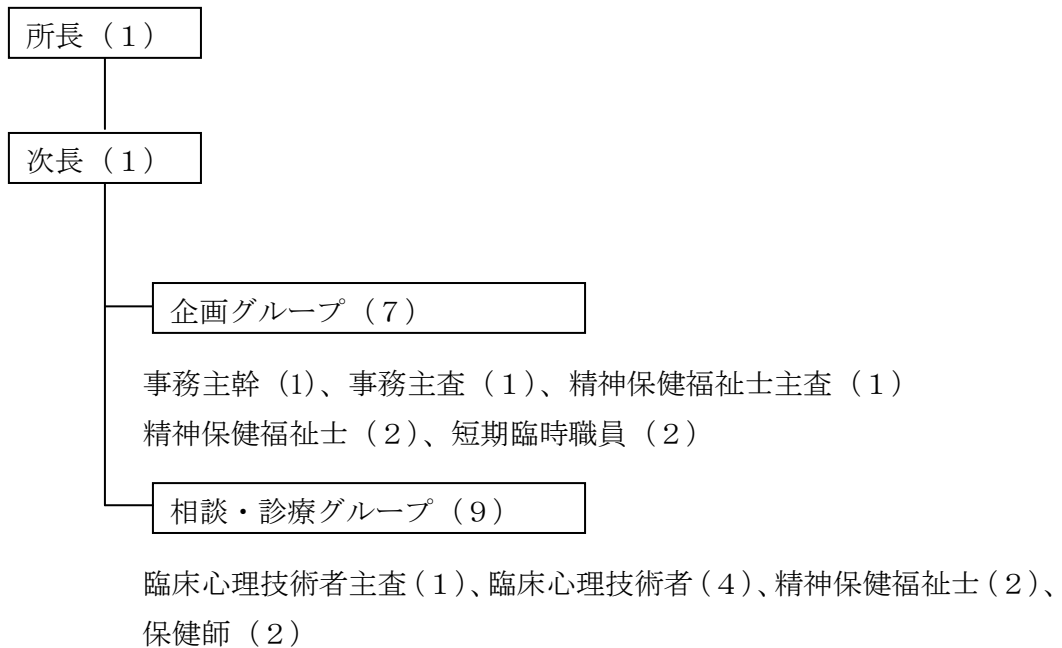
南海バス「堺東」駅より(泉ヶ丘駅行)乗車、「旭ヶ丘」バス停下車すぐ
南海バス(西区役所前行など)乗車「塩穴通」バス停下車 南東へ500m

1-4 開設

開設年月日 平成18年4月1日

2 組織と職員数

2-1 組織（平成25年4月1日現在）



2-2 職種別職員数（平成25年4月1日現在）

	医師	精神保健 福祉士	臨床心理 技術者	保健師	看護師	事務職
所長・次長	1	1				
企画G		3 内非常勤職員 1				4 内短期臨時職員 2
相談・診療G		2 内非常勤職員 1	5 内非常勤職員 2 短期臨時職員 1	2		

電話相談員・・・11名（当番制）

非常勤嘱託医師・・・2名

Ⅱ 事業概要と業務実績

1 専門相談・診療事業

1-1 専門相談

精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談及び指導のうち、複雑または困難な事例に対する相談業務を行った。(表 1-1-1)

(表 1-1-1) 専門相談事業 利用者数

		延べ数	実数
合計		5,035	814
再掲	ひきこもり	3,451	295
	薬物依存症	596	86
	自死遺族	118	24

1) ひきこもり

ひきこもり状態にある本人およびその家族や関係者に対して相談支援を行った。対象は、おおむね 15 歳以上で、自宅以外での生活の場が失われている状態にあり、あきらかな精神疾患の存在が認められない本人及び家族・関係者とした。電話、来所面接、家庭訪問、所外相談（同行等）、手紙、メール等の方法により実施した。(表 1-1-2)

また、ひきこもり相談を利用している家族を対象に、ひきこもりに関する学びの場とする家族教室と、家族同士の交流の場としての家族交流会を実施した。(表 1-1-3)

さらに、ひきこもり相談を利用している本人を対象とした各種グループワークを実施した。(表 1-1-4)

(表 1-1-2) ひきこもり相談 相談形態 (延べ件数)

電話	来所相談	家庭訪問	所外	手紙	メール	合計
1164	1850	108	81	50	198	3451

(表 1-1-3) ひきこもり家族教室・交流会 利用状況

内容	概要	実施回数	利用者延数
家族教室	精神疾患に関する講座、家族の体験談、ライフプランセミナー	3	49
家族交流会	家族の思いを話し合い、支え合うための交流会	6	34
合計		9	83

(表 1-1-4) ひきこもり本人向けグループワーク 利用状況

内容	概要	形式	実施回数	利用者延数
スポーツ	体育館で卓球などをする	単回	13	167
体験	ボランティアなどの体験をする	単回	19	206
講座	さまざまな講義を聴く	単回	13	107
居場所&企画	出入り自由な場所で、自由に過ごすグループワークの企画をする	単回	18	79
コミュニケーション	会話のコツを学び、実践してみる	連続	3	18
女性	創作を通して交流をする(女性限定)	連続	5	15
ユース・ピアサポーター養成講座	ユース・ピアサポーターを養成するための講座	連続	4	23
サポーターのミーティング	サポーターによるグループワークの企画会議	連続	3	18
サポーター企画プログラム	サポーターが企画したプログラム(調理で交流する等)	単回	2	39
合計			80	672

2) 薬物依存症

覚せい剤、麻薬等の違法薬物の依存の問題で困っている本人及び家族等に対して相談支援を行った。個別の状況に応じた支援、および精神科医による相談(月1回程度)を実施した。(表 1-1-5)

また、薬物依存症で困っている家族を対象に、薬物問題の正しい理解とその対応について学ぶことを目的とした家族教室を実施した。教室は大阪府こころの健康総合センターおよび大阪保護観察所との共催で実施した。(表 1-1-6)

さらに、薬物依存症相談の利用者を対象に、再発予防を目的としたグループワークを実施した。(表 1-1-7)

(表 1-1-5) 相談対象薬物 (主なもの)

相談対象薬物	延べ件数
覚せい剤	194
麻薬	0
大麻	3
有機溶剤	37
脱法ドラッグ	328
処方薬	11
その他	23
合計	596

(表 1-1-6) 薬物依存症家族教室 利用状況

内容	概要	実施回数	利用者延数
家族教室	薬物依存症についての知識や、本人への関わり方を学ぶ	8	189

(表 1-1-7) 薬物依存症グループワーク 利用状況

内容	概要	実施回数	利用者延数
再発予防プログラム	薬物依存症についての知識や再発予防のための工夫を学ぶ	4	8

3) 自死遺族

大切な人を自殺で亡くした遺族等を対象に、個別の状況に応じた支援、および臨床心理士による心理カウンセリング (月 2 回程度) を実施した。

自死遺族相談実績 (再掲) 実数 24 人 延べ数 118 人

うち臨床心理士による相談 22 回実施 利用者数 実 8 人 延べ 25 人

1-2 専門外来診療事業

公的医療機関として一般精神科では対応困難な症例について、特定外来診療を予約制で行った。(表 1-2-1)

専門外来診療 利用者数 実 21 人 延べ 39 人

(表 1-2-1) 診断分類

診断	件数
広汎性発達障害	9
その他	12
合計	21

1-3 こころの電話相談

こころの病に対する偏見は依然として強く、適切な精神科医療機関及び相談機関に関する情報は充分ではない状況に対して、電話の利便性の高さや匿名性を生かし、よりスムーズな医療・相談機関等の情報提供を行うとともに、精神障害者の生活相談に即応することを目的として、電話相談を実施した(表 1-3-1)、(表 1-3-2)、(表 1-3-3)。なお、平成 24 年 9 月より全国こころの健康統一ダイヤル(0570-064-556)に常時加入した。

専用回線(1回線)により、有資格者の電話相談員が土・日・祝日・年末年始を除く 9:00~12:30、13:30~17:00 に対応した。

また、電話相談における常連通話者(リピーター)や困難事例への対応の検討、及び相談技術の向上、社会資源の情報の更新等を目的に、電話相談員のフォローアップ研修及び交流会を実施した。

(表 1-3-1) 件数(相談日は 244 日)

	件数	日平均
全体	2,452	10.0
(内新規相談)	840	3.4
(内リピーター)	1,612	6.6

(表 1-3-2) 相談時間(分)

	件平均
全体	18.1
新規	21.1
リピーター	16.6

(表 1-3-3) 相談内容

内容	件数
老人精神保健	77
社会復帰	42
アルコール	20
薬物	5
心の健康づくり	1,473
思春期	28
その他	807

1-4 ひきこもり地域支援センター

平成 23 年度に、こころの健康センター内に「ひきこもり地域支援センター(成人期)」を設置した。ひきこもりで悩む本人や家族が孤立し、問題が長期化・重症化しないよう、市民に対する講演会の実施や、ホームページ・リーフレット等を使った啓発を行った。また、各関係機関のネットワークを構築し、支援体制の整備を行った。さらに、これまでのひきこもり専門相談に加えて、「ひきこもり相談電話」を設置して利便性を高め、より広く市民からの相談に応じた。

1) ひきこもり市民講演会

実施日	内容	参加者
12月7日	テーマ：ひきこもり支援の現状と若者からのメッセージ～麦の郷ハートフルハウス創における活動から～ 講師：社会福祉法人一麦会「麦の郷ハートフルハウス創」 野中康寛氏、岡田佳久氏	60人
2月14日	若者がひきこもる意味～家から居場所・コミュニティへ～ 講師：立命館大学教授 山本耕平氏	71人

2) ひきこもり相談電話

ひきこもりに特化した相談窓口として専用回線で相談受付を行った。

ひきこもり相談電話：延べ 90 件

3) ひきこもりに関する教育研修・技術支援等 ※教育研修事業等の再掲

ひきこもりに関する研修 2回 参加者延べ 108人

ひきこもりに関する講師派遣 3回

ひきこもりに関するネットワーク会議および事例検討会 26回

2 教育研修事業

2-1 新任者研修

堺市内の精神保健福祉関係機関における実務経験が概ね1年未満の職員を対象に、精神障害に関する基礎的な知識と基本的な技術の習得を目的として研修を行った。

(表 2-1) 新任者研修 実施実績

実施日	平成 25 年 5 月 27 日～5 月 30 日 (4 日間)
内容 (講師)	① 堺市精神保健福祉の流れおよび相談の実際 (精神保健福祉士) ② 精神保健福祉に関する制度および堺市の相談支援体制 (精神保健福祉士) ③ 精神疾患の基礎知識 (精神科医) ④ 面接技法 (臨床心理技術者) ⑤ 当事者が望む支援 (精神障害のある当事者) ⑥ 家族会の活動と家族の思い (家族会) ⑦ ヘルパー支援から見えてきたもの (ヘルパー事業者) ⑧ 見学実習・報告会 (浅香山病院、アンダンテ、こころの健康市民サポートセンター、 泉北ハウス) ⑨ 援助職のストレスケア (臨床心理技術者)
参加人数	延 76 人

2-2 現任者研修

精神保健福祉相談関係機関で相談業務に従事する職員を対象に、精神障害に関する理解を深め支援の技術を向上させることを目的として研修を実施した。

(表 2-2) 現任者研修 実施実績

内容	講師	実施日	参加人数
①精神科で使われる薬の基礎知識	こころの健康センター 精神科医	7/10	83
②ひきこもりの背景に見られる精神疾患と発達障害	こころの健康センター 精神科医、臨床心理技術者	7/29	60
③面接技法（入門）	大阪府立大学 山中 京子 氏	9/5	10
④電話相談の基本的な理解	関西福祉科学大学 都村 尚子 氏	10/15	30
⑤日中活動の場だからできること	公益財団法人浅香山病院 百田 功 氏 山崎 勢津子 氏	11/5	30
⑥ひきこもりの相談支援の実際	北保健センター 精神保健福祉士 こころの健康センター 臨床心理技術者	11/22	48
⑦思春期の理解と対応	堺市教育委員会 久保 幾史 氏 こころの健康センター 精神保健福祉士、臨床心理 技術者	2/13	24
⑧事例検討を用いた関わりの再考	大阪人間科学大学 辻井 誠人 氏	2/21 2/28 3/7	3 3 3
⑨堺で学んだこと、伝えたこと、これから	こころの健康センター 精神科医（所長）	3/18	16
合計			延 310 人

2-3 相談員研修

保健センターの精神保健福祉相談員を対象に、ケースワーク技術の向上、相談員間の情報共有と連携を図るため、事例検討研修を実施した。

(表 2-3) 相談員研修 実施実績

実施日	毎月第3金曜日（ただし4月は未実施）
内容	事例検討
参加人数	延71人

2-4 講師派遣研修

精神保健福祉関係機関や精神保健福祉に関心のある団体等からの要請により所内の専門職を派遣した。

(表 2-4) 講師派遣実績

実施日	対 象	内 容	派遣講師	参加人数
4月2日	堺市職員	メンタルヘルスについて	医師	125
4月2日	堺市職員	メンタルヘルスについて	医師	42
5月1日	堺市職員	こころの健康センター 業務概要	精神保健 福祉士	46
9月24日	堺市職員	メンタルヘルスについて	医師	7
7月8日	堺市職員（東日本大 震災被災地派遣職員）	メンタルヘルスについて	医師	10
7月18日	中区 民生委員児童委員	精神障害者の理解と接し方	精神保健 福祉士	150
8月31日	大阪精神保健 福祉士協会	援助職のメンタルヘルス	臨床心理 技術者	37
9月26日	晴美台校区 民生委員会	精神障害をお持ちの方と地域 とのおつきあい	精神保健 福祉士	15

9月27日	保護観察所 社会復帰調整官	堺市における精神保護福祉 行政のあらまし	医師	24
10月1日	認知症介護指導者 養成研修修了者等	認知症ホーターに伝えたいこと ～認知症を理解する～	医師	52
10月31日	自殺防止 地域関係者研修会	自殺未遂者支援 これからの 自殺未遂者支援の取り組み	医師	30
11月7日	警察職員・消防職 員等	「堺市のいのちの応援係の取組 について」意見交換	医師	15
11月16日	市民後見人養成講 座受講者	対象者の理解 精神障害者	精神保健 福祉士	50
合 計 (13回)				603人

2-5 学生実習

医科大学生等について、こころの健康センターで実習を行った。

(表 2-5) 学生実習受入実績

学校名	人数	実習場所
奈良県立医科大学	6	こころの健康センター等
大阪保健福祉専門学校	1	こころの健康センター等

2-6 その他研修

その他研修として、こころの健康センター職員が受講した研修の伝達等を行った。

(表 2-6) その他研修 実施実績

内容	講師	実施日	参加人数
①伝達研修 Part1	こころの健康センター 精神保健福祉士、保健師、 臨床心理技術者	12/17	18
②伝達研修 Part2	こころの健康センター 精神保健福祉士、保健師、 臨床心理技術者	3/6	15

③退職記念講演	精神保健課 精神保健福祉士（課長）	2/25	31
	こころの健康センター 精神保健福祉士（次長）	3/25	24
合計			延 88 人

3 普及啓発事業

3-1 精神保健福祉セミナー

広く市民に精神保健福祉に関する正しい知識の普及・啓発を行い、こころの健康についての関心を促すことによって、ノーマライゼーションの理念の実現を図り、こころ豊かなまちづくりを市民の側から進めるきっかけとすることを目的として企画開催した。企画・運営は、市内関係各機関で構成された実行委員会により実施した。

(表 3-1) 精神保健福祉セミナー開催実績

名称	第 20 回堺市精神保健福祉セミナー 「セミナーが 20 歳になりました ～いつ行くか。今でしょ!～ ～精神と共に生きる～」
開催日	平成 25 年 11 月 16 日 (土)
場所	関西大学堺キャンパス B 棟 3 階 302 教室
主催	堺市精神保健福祉セミナー実行委員会
内容	・ 講演『病いの体験から学ぶ』 関西大学 黒田 研二 氏 ・ インタビュー映像『精神と共に生きる』放映 ・ 当事者、家族、支援者による座談会 ・ 作品展示
参加者	125 人

3-2 ハッスル運動会 (堺市精神障害者地域交流運動会)

堺市内の医療機関もしくは社会復帰施設等を利用する精神障害者やその家族、関係機関の職員及びボランティアを含めた市民等が相互に交流することにより、精神障害者への理解を深め、精神障害者の社会参加を促進するとともに、地域のネットワークづくりの構築を推進することを目的として開催した。

(表 3-2) ハッスル運動会 (堺市精神障害者地域交流運動会) 開催実績

名称	第 25 回堺市精神障害者地域交流運動会
開催日	平成 25 年 10 月 17 日 (木)

場所	J-GREEN 堺（堺市立サッカーナショナルトレーニングセンター） 屋根付フットサルコート
主催	堺市精神障害者地域交流運動会実行委員会
協力等 （順不同）	大阪いずみ市民生活協同組合、㈱神戸屋堺工場、堺ヤクルト販売(株)、 東燃ゼネラルグループ労働組合堺支部
参加者	528 人（28 団体、メンバー：349 名、スタッフ：184 名）

3-3 家族講演会

精神障害者の家族を対象に精神障害についての研修を行い、家族の不安を軽減するとともに、交流の機会を設け、孤立を防止することを目的として、精神障害者家族講演会を開催した。

（表 3-3）家族講演会実績

内容	講師	実施日	参加人数
①リカバリーに向けた薬物療法	三重県立こころの医療センター 中村 友喜 氏	6/15	71
②障害者の“働く”を支える	堺市障害者就業・生活支援センター 松林 利典 氏	9/21	43
③薬とうまくつき合うために！ ～薬と薬の飲み合わせや困った時の 対処法～	三重県立こころの医療センター 中村 友喜 氏	3/22	73
合計			延 187 人

3-4 出前講座

「どこでもセミナー～堺市生涯学習まちづくり出前講座～」として、諸団体からの要請を受けて講師を派遣し、こころの健康づくりに関する知識の普及・啓発を行った。

（表 3-4）出前講座実績

内容	実施回数	参加人数
こころの健康講座～ストレスと上手につきあうコツ～	12	延べ 246 人
簡単うつ病講座～身近なうつ病、気づいていますか？～	2	延べ 45 人
合計	14	延べ 291 人

3-5 講師派遣

精神保健福祉関係機関、精神保健福祉に関心のある団体等からの要請により専門職を派遣した。

(表 3-5) 講師派遣実績

実施日	対象	内容	派遣講師	参加人数
7月9日	一般市民	精神障害者の理解と接し方	精神保健福祉士	20人
1月18日	一般市民	ひきこもり支援について	臨床心理技術者	10人
1月19日	スポーツ指導員	「障害の理解（精神障害）とスポーツ」	精神保健福祉士	26人
合計（3回）				56人

3-6 機関誌の発行

堺市こころの健康センター通信（機関誌、愛称『こころのさかい』）を年2回発行し、市内各区の図書館、区役所の市政情報コーナーなど市民が利用することの多い場所に配架した。

(表 3-6) 「こころのさかい」発行実績

発行年月	通算	発行部数	主な内容
平成25年9月	第18号	3,000部	強迫性障害
平成26年3月	第19号	3,000部	社交不安障害

3-7 啓発冊子の作成

精神的健康の増進、精神疾患に対する正しい知識の普及を目的として冊子を作成し、各区の保健センターへ配架した他、講演会、イベント等で配布した。

(表 3-7) 啓発冊子発行実績

名称	発行部数
これからのことに悩む若者への パンフレット	2,000 部
うつ病ってなに？	3,000 部

3-8 ホームページ

精神障害者に対する支援制度、利用可能な資源、精神疾患に関する知識、研修会、講演会等の開催情報など、こころの健康センターのホームページに掲載した。

URL:

<http://www.city.sakai.lg.jp/kenko/kenko/hokencenter/kenkocenter/index.html>

3-9 中学校への精神保健授業

中学生のメンタルヘルスに関する正しい知識の普及を目的として、市内中学校の生徒を対象に、精神保健に関する授業を実施した。

(表 3-9)

実施日	対象	受講者数
7月2日	八下中学校2年生2クラス	64人
7月4日	八下中学校3年生2クラス	52人
7月8日	八下中学校1年生2クラス	52人
	合計	168人

4 技術支援事業

4-1 関係機関への技術支援

市内各区の保健センター及びその他の相談機関が実施している精神保健相談業務等に対して、技術支援を行った。

保健センター 9件 その他の機関 6件

4-2 事業への技術支援

精神障害者の福祉向上施策の推進のためには、関係機関との連携が不可欠なことから関係機関が実施・主催する連絡会議、ケース会議等に積極的に参加し、情報共有を図りながら、こころの健康センターの専門性を生かした技術支援・技術指導を行った。

(表4) 技術支援・技術指導 実績

事業	実施主体	内容	回数
医療観察法関連	大阪保護観察所	合同事例検討会等 ケア会議等	3 39
日常生活自立支援事業	堺市社会福祉協議会	契約締結審査会への出席	6
高次脳機能障害支援関係	生活リハビリテーションセンター	ネットワーク会議、研修への出席等	7
地域生活支援事業	障害施策推進課	堺市障害者自立支援協議会及び各区障害者自立支援協議会への出席等	76
地域生活支援事業	障害施策推進課	障害者地域移行体制整備事業に係る会議への出席	15
障害者虐待関係	障害施策推進課	虐待コア会議への出席等	59
精神障害者スポーツ大会	精神障害者スポーツ大会 実行委員会	運営委員会への出席等	4
アルコール関係	精神保健課	会議への出席等	3

精神保健福祉業務連絡調整会議	精神保健課	会議への出席等	9
自殺対策事業	精神保健課	自殺対策連絡懇話会、庁内連絡会への出席	4
病院実地指導	精神保健課	市内精神科病院の実地指導立会い	5
全国社会的ひきこもり支援者実践交流会	全国社会的ひきこもり支援者実践交流会実行委員会	現地実行委員会への出席、テーマ別交流会コーディネーター	8
ひきこもり関係	ひきこもりサポーターの養成と活用に関するモデル事業検討委員会	検討委員会への出席	2
大阪レイブル超就活	大阪労働協会	大阪レイブル超就活報告会への出席等	2
子ども若者支援地域協議会	子ども家庭課	子ども若者支援地域協議会および実務者会議の出席、打合せ等	13
高齢者虐待関係	南基幹型包括支援センター	ひきこもりに関する事例検討会の出席	1
合計			256

5 組織育成事業

市民の精神保健福祉の向上を図るために、地域住民による組織活動に対して支援を行った。

(表 5) 組織育成事業 実績

対象	回数
家族会等	7

6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

6-1 精神医療審査会

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、精神医療審査会事務局を設置し、精神医療審査会を開催している。合議体は2合議体で、各12回、合計24回開催した。

(表 6-1-1) 審査委員内訳

委員	人数
精神保健指定医	6（予備委員1名含む）
弁護士	2
学識経験者	3

(表 6-1-2) 審査内訳

請求等区分	入院形態	請求件数	審査結果 件数	審査結果				
				退院請求		処遇改善請求		
				入院等は 適当	入院は不適當 又は他の入院 形態へ移行	処遇は 妥当	処遇を 改善	
退 院 請 求 等	退院請求	医療保護	27	15	12	3		
		措置入院	2	2	1	1		
	退院請求と 処遇改善請求	医療保護	8	8	6	2	5	2
		措置入院	0	0	0	0	0	0
処 遇 改 善 請 求	医療保護	0	0			0	0	
	任意入院	0	0			0	0	
書 類 審 査	医療保護入院届		2,608	2,608	0			
	医療保護 定期病状報告		904	904	0			
	措置入院 定期病状報告		11	11	0			

※平成25年度受理分を計上（一部、平成26年度繰越により完了したものを含む）。

※「退院請求と処遇改善請求」の同時請求分について、退院請求を容認した結果、処遇改善請求の要件が消失したケースがあったため、審査結果（処遇改善請求）の件数に不一致あり。

6-2 自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

1) 自立支援医療(精神通院)支給判定業務

自立支援医療(精神通院)支給にかかる診断書の判定業務を行った。

(表 6-2-1) 自立支援医療(精神通院)判定件数

判定	件数
承認	9,846
不承認	1
合計	9,847

2) 精神障害者保健福祉手帳判定業務

精神障害者保健福祉手帳の申請にかかる診断書の判定業務を行った。

(表 6-2-2) 精神障害者保健福祉手帳判定件数

判定	件数
承認	2,402
不承認	21
合計	2,423

堺市こころの健康センター所報 第8号（平成25年度実績）

編集・発行 堺市健康福祉局健康部こころの健康センター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号

堺市立健康福祉プラザ3階

TEL 072-245-9192 FAX 072-241-0005

E-mail kokense@city.sakai.lg.jp